
たとえばなし

蒼井ヒトミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たとえばなし

【著者名】

Z7253H

【作者名】

蒼井ヒトミ

【あらすじ】

新一と志保のある日の会話。新一に志保がした『たとえばなし』とは。

(前書き)

このお話しは新一×志保です。このカッティングが苦手な方はBA
ご使用下さいませ。

今日は博士が友人達との会合に出掛け遅くなると言つていた。

俺はいつものように阿笠邸で夕飯を食べに来た。

志保は博士が居ない日は俺の好物を良く作ってくれる。

今日は牛肉と玉葱の煮込みとアボガドとエビのサラダ、枝豆の冷製スープだった。

いつものように手際良く後片付けを始めた志保に皿拭きでも手伝おうかと声を掛けたが、

邪魔になるからいいわと拒否された。

渡された珈琲を飲む。ブラックを気兼ねなく飲める身体になつて2ヶ月が過ぎた。

実際のところ、俺達は微妙な状態だった。

蘭とは今も幼馴染のままで、志保とは「ひやつて時間が取れる時は、夕食を共にしたり

している。（もちろん博士も一緒にだが）

たまにこういう一人きりの時にそつと抱き締めてしまつたり、軽い口付けをしたり

する。

志保は抵抗しないし、俺は何も言葉にはしない。

その後はお互い普段通りだ。

こういう関係つてあいつはどう思つてるんだろう。

そして、俺は・・・。

「問題。」食事を終え、洗い物を済ませた志保がソファに戻つて来て、言つた。

「もし、崖で私と蘭さんがぶら下がつていて、一人しか助けることが出来なかつたら・・・。」

貴方どうするのかしら。

につこり。なんだろ「このいかにも嘘っぽい笑顔は。たとえ話でも、誤魔化しは許されないような気がした。笑顔なのに、そしてたとえ話なのに、この緊張感。いや、緊張しているのは志保だ。

ちよつと考えて、眞面目に答えた。

「蘭を助ける。」

「それが正しいわ。」志保は少しほつとしたように緊張を解いた。「ちゃんと理由はある。蘭には絶対に幸せになつてもらわなきゃ俺がヤなんだよ。」

「私もよ」迷い無く志保は言つ。

そんな志保だから、俺は。

「そんで志保と一緒に落ちる。」

「・・・・・は？」

「可能なら一人で助かる。ダメな時は一人で天国。」

「・・・・・貴方ね。」

見慣れた呆れた表情。いつちのが安心する。

どれだけこの顔されてきたかだよな。はは。

「しうがねえだろ。選択肢は他に無いんだから。」

「たくさんあるでしょ。」頭痛いわと志保が続ける。額まで押さえてる。

「無いよ」そこは譲れない。

「蘭は幸せになつて欲しいけど、志保は俺が幸せにしたいから違うがねえ。」

「・・・・・はい？」聞き返す恥ずかしいから。

「他の誰が幸せにすんのもヤなんだよ。絶対。」

志保は無言で無表情。

あ、こいつ今絶対困つてる。どれだけ相棒やつてきたと思つてんだ。

「・・・・・運命共同体なんだろ。最後まで責任取れ。」

「脅迫？」猫のような上目遣い。お前、その威力わかつてんのか。

「どうとっても構わねえよ。」その方がお前が納得出来るんなら。
髪の毛をひとすじ掬い取つて、遊んでみる。

お、今日は毛を逆立てないな、この猫は。

早く懷いてくれるといいんだけどな。

「・・・・脅迫なら、仕方ないわね。」

「言ひこと、きくわ。」碧がかつた瞳が煌めぐ。
ノックアウト。堪えきれずそのまま顔を寄せる。

軽い口付けにするつもりだったのに、深く口内に割り入つてしまつた。

しばらく夢中で志保を味わう。

数分経つて、志保に押し返されるまで。

長い口付けに頬が少し色づいていく。

「今日はここまでにしとく。」本当はこのままずっと味わっていた
いけど。

「やつと懐きかけた猫の『機嫌を損ねない』」

「・・・・にやあ。」猫の鳴き声の割りにクール。でも意外性にク
ラクラする。

またもや、襲つてしまいそうになるだろうが。

「あんまり俺で遊ぶといつかブレーキかかんねえからな。」

「あら、楽しみに待つておくわ。」不敵な笑みを見せる。

今まで、瞳も潤んで女の表情、していたくせに。

「お手柔らかに頼むぜ。志保ねーさん。」

すると、返事の代わりに頬へ軽い口付けが降つて來た。

俺はおとなしく降参することにして、愛の言葉を口にした。

(後書き)

この志保サンは優柔不斷な新一にはっぱかけてますね。
でも、蘭の方に行くならそれで良いと思つては、います。
そういう覚悟は出来ていて恋をしています。
傷つかないわけでは無いです。

ブログにてコナンSSしています。

良かったら遊びに来て下さい~

http://candyapple777.blog58.fc2.com/

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7253h/>

たとえばなし

2010年12月18日14時30分発行